

名古屋大学附属図書館研究開発室
年次報告
2018

*Annual Report of Nagoya University
Library Studies 2018*

目 次

I. 名古屋大学附属図書館研究開発規程	1
II. 室 員 名 簿	2
III. 事 業 報 告	3
IV. 研究開発概況	5

I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程

制 定 平成16年4月1日

(設置)

第1条 名古屋大学附属図書館に研究開発室を置く。

(目的)

第2条 研究会開発室は、大学における学術情報の収集、保存、提供等の教育支援活動のうち、附属図書館長が定める事項に関する研究開発及び図書館情報教育を行い、もってハイブリッド図書館としての機能の強化を図るとともに、高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

(室長)

第3条 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。

2 室長は、研究開発室の業務を掌握する。

(室員)

第4条 研究開発室に、専任室員若干名を置く。

2 専任室員は、本学大学教員のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。

3 第1項に定めるもののほか、研究開発室に兼任室員を置くことができる。

4 室員は、室長の指示に従い、研究開発室の業務に従事する。

(細則)

第5条 この規程に定めるもののほか、研究開発室に関し必要な事項は、附属図書館長が定める。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

Ⅱ. 室員名簿

	氏名	専門領域／所属・職名／着任
室長	森 仁志	分化情報制御 生命農学研究科・教授（附属図書館長） 2015年4月～
専任室員	石川 寛	日本史学 人文学研究科・特任准教授 2010年4月～
研究員	松波 京子	西洋書誌学、科学史 研究開発室 2015年4月～
兼任室員	長尾 伸一	社会思想・政治思想・政治経済学 経済学研究科・教授 2002年4月～
兼任室員	塩村 耕	日本文学 人文学研究科・教授 2003年4月～
兼任室員	外山 勝彦	知識情報処理・自然言語処理・法情報処理 情報基盤センター・教授 2013年3月～
兼任室員	小川 泰弘	自然言語処理・法情報処理 情報基盤センター・准教授 2013年4月～
兼任室員	山里 敬也	通信ネットワーク工学・教育工学 教養教育院・教授 2014年4月～
兼任室員	頼 偉寧	認知科学 教養教育院・特任准教授 2014年4月～
兼任室員	斎藤 夏来	日本史学 人文学研究科・教授 2017年4月～
兼任室員	駒水 孝裕	データベースシステム・データ工学 情報基盤センター・助教 2018年2月～

Ⅲ. 事業報告

①室員及び研究開発内容

室長	森 仁志	全体統括
専任室員	石川 寛	(1)高木家文書の文化財調査に向けた整理作業 (2)コンテンツ開発・地域連携強化
研究員	松波 京子	(1)西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションの整備 (2)平成29年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)データベース事業の完了。 (3)その他
兼任教授	長尾 伸一	(1)西洋近代思想史関係貴重資料のデータベース作成 (2)西洋近代思想史に関する学術情報発信の方法の研究：とくに電子ジャーナルによる国際誌の発行
兼任教授	塩村 耕	(1)附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究 (2)西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究
兼任教授 兼任准教授 兼任助教	外山 勝彦 小川 泰弘 駒水 孝裕	(1)学術コンテンツ・サービスのための統合情報基盤の整備に関する調査
兼任教授	山里敬也	(1)著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の作成についての研究開発
兼任准教授	頼 偉寧	(1)Develop academic writing workshops that integrate a practical and constructive approach to logical thinking education into academic writing education for university students in general. (2)Transform a graduate course into a library workshop series suitable for both graduate and undergraduate students. (3)Develop teaching materials for the workshop series.
兼任教授	斎藤 夏来	(1)高木家文書の初期文書について (2)野間家文書の活用について

②活動概況（開発室全体に関する事項）

2018年名古屋大学新入生歓迎展示会 貴重書コレクション -時を超える贈り物-	2018年4月2日 ～6月10日
2018年 高木家文書特別展	2018年7月10日 ～8月14日
2018年秋季特別展 古文書にみる地震災害（リバイバル展）	2018年10月19日 ～11月17日
第43回トークサロン 近世文人旗本の東西交信記録『飛檄』を読む	2018年9月6日
第44回トークサロン 日本の現代戯曲を読む—清水邦夫作品をめぐって	2018年11月26日
第45回トークサロン ロマノフ家にこそ皇帝（ツァーリ）の資格あり—16世紀末ロシアの皇統断絶時に現れた諸文書を中心に	2019年2月18日

③刊行物

古文書にみる地震災害（増刷）	2016年2月5日発行
旗本高木家と木曾三川流域治水	2019年3月1日発行
吉田家文書目録	2019年3月31日発行
名古屋大学附属図書館研究年報 第16号	2019年3月31日発行
名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告2018	2019年3月31日発行

IV. 研究開発概況

■ 森 仁志（室長・附属図書館長・生命農学研究科教授）

■ 研究開発事項

全体統括

■ 成果のリスト

[その他の役割]

1. 国立大学図書館協会理事館長
2. 国立大学図書館協会学術資料整備委員会委員長
3. 東海北陸地区国立大学図書館協会会長
4. 東海地区大学図書館協議会会長
5. 東海地区図書館協議会会長
6. 名古屋大学高等教育研究センター主催学生論文コンテスト審査員

■ 石川 寛（室員・文学研究科特任准教授）

■ 研究開発事項

- (1) 高木家文書の文化財調査に向けた整理作業
- (2) コンテンツ開発・地域連携強化

■ 研究開発状況

- (1) 高木家文書の文化財調査に向けた整理作業

1. 目録整備作業

名古屋大学附属図書館が所蔵する高木家文書について、昨年度に引き続き目録整備作業を実施し、A 領地から E 治水までの作業を終えた。

2. 文化財指定

2019年3月18日に国の文化審議会は、高木家文書を重要文化財に指定することについて文部科学大臣に答申した。名称は「交代寄合西高木家関係資料」、対象は文書・記録類32647点、典籍類109点である。

- (2) コンテンツ開発・地域連携強化

1. OKB 大垣共立銀行高木家文書資料館

7月に大垣共立銀行の寄付を受けて、「OKB 大垣共立銀行高木家文書資料館」を設置し、高木家文書の研究成果を広く紹介することとなった。開館を記念して2018年7月10日～8月14日に高木家文書特別展を開催し、2019年3月19日から高木家文書の常設常設展示を始めた。

2. 高木家文書のデジタル化と修復

2018年に立ち上げたクラウドファンディングおよび科学研究費補助金・基盤研究（B）「旗本高木家文書を中心とした分散資料の統合と共有化に関する研究」（課題番号15H03237、研究代表者・石川寛）などにより、高木家文書の修理とデジタル画像の作成に取り組み、高木家文書デジタルライブラリー（https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000011Takagi）に登録・公開した。

3. 蓬左文庫所蔵東高木家文書

名古屋市蓬左文庫と名古屋大学附属図書館の間で「名古屋市蓬左文庫所蔵「美濃高木家文書」の画像利用に関する覚書」を取り交わし、蓬左文庫所蔵の東高木家文書を高木家文書デジタルライブラリーに登録し、公開することで合意した。

4. 本学以外の高木家文書

名古屋城振興協会（2点）、国立臺灣大學圖書館（44点）、高木家（234点）が所蔵する高木家文書についても撮影を進め、高木家文書デジタルライブラリーでの公開に取り組んだ。

このほか東高木家文書（個人蔵）約6000点のうち、800点余を整理・補修し、デ

デジタル撮影によりデータ収集をおこなった。これにより、他機関所蔵分とあわせ、現存する東高木家文書の全体像を把握することができた。北高木家文書（個人蔵）約4100点についても、仮目録データを点検し、目録化にむけた準備を進めた。また、旗本領主支配の研究を豊富化する情報資源として、高木家の陣屋がおかれた宮村に隣接する多良上原村の地方史料を収集した。

5. 牧田村吉田家文書

大垣市教育委員会の依頼により、牧田村（現岐阜県大垣市上石津町）の吉田家に受け継がれてきた資料群の整理を終え、大垣市教育委員会と共同で『吉田家文書目録』を刊行した（担当は辻公子）。

6. 「歴史地震」研究

環境学研究科附属地震火山研究センターの山中佳子准教授が代表をつとめる「古文書を用いた南海トラフ超巨大地震の地震発生メカニズムの解明」（災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画）に参加し、2018年秋季特別展「古文書にみる地震災害（リバイバル展）」（2018年10月19日～11月17日）を開催した。

■ 成果のリスト

〔論文等〕

1. 「近代における高木家文書の調査と活用」『名古屋大学附属図書館研究年報』16 2019年3月
2. 「国立臺灣大學圖書館所蔵東高木家文書目録」『名古屋大学附属図書館研究年報』16 2019年3月
3. 『旗本高木家と木曾三川流域治水』 2019年3月
4. 『吉田家文書目録』 2019年3月
5. 『古文書にみる地震災害』 2016年2月（増刷）

〔講演・講義〕

1. アーカイブズ学入門—文書史料の世界をあるく— 第5回「前近代のアーカイブズ—古文書実習—」（全学教育科目） 2018年11月19日

〔その他〕

取材記事

1. 『Kix club』133 OKBグループ・株式会社 OKB 総研 2018年12月15日発行
2. 『スマイル』41 OKB 大垣共立銀行スマイル倶楽部事務局 2018年12月28日発行
3. 『朝日新聞』 2019年3月13日 13版 22面 地域総合

■ 松波 京子（研究員・研究開発室）

■ 研究開発事項

- (1) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションの整備
- (2) 平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）データベース事業の完了。
- (3) その他

■ 研究開発概況

- (1) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションの整備
 - ・(2)の事業にも含まれるが、Hobbes Iを中心に、目録の再調査を行った。
 - ・当館のコレクションを補完する資料を選定した。
- (2) 平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）データベース事業を完了し、2018年7月末に一般公開した。
 - ・今年度採択された科研費事業によって「ホップズ・水田コレクションデータベース」を作成した。
- (3) その他
 - ・西洋古典籍デジタル化予算で公開をされる古典籍を中心に、目録の再調査を行った。これらについては、2018年度末に西洋古典籍デジタルライブラリーにて共に公開した。
 - ・水田名誉教授より寄贈された一般研究図書の入入れ準備を行った。

■ 成果のリスト

[報告書]

1. 松波京子「名古屋大学附属図書館所蔵西洋古典籍デジタルライブラリーの紹介」、『名古屋大学附属図書館研究年報』第16号(2019年3月)、11-16頁。

■ 長尾 伸一（兼任室員・経済学研究科教授）

■ 研究開発事項

- (1) 西洋近代思想史関係貴重資料のデータベース作成
- (2) 西洋近代思想史に関する学術情報発信の方法の研究：とくに電子ジャーナルによる国際誌の発行

■ 研究開発概況

- (1) 西洋近代思想史関係貴重資料のデータベース作成
本年度は平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・研究成果公開促進費）「ホッブズ・水田コレクションデータベース」の公開に向けた補足作業を行い、同データ・ベースの公開を実施した。
- (2) 西洋近代思想史に関する学術情報発信の方法の研究：とくに電子ジャーナルによる国際誌の発行
学術情報発信の拠点として図書館を位置付けるために、関連学会と連携して無料の国際誌の発行等を検討した結果、日本18世紀学会と協議して、国際18世紀学会大会の日本報告集を基に英語、フランス語のジャーナルを編集し、公開する準備を行った。

■ 塩村 耕（兼任室員・人文学研究科教授）

■ 研究開発テーマ

- (1) 附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究
- (2) 西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究

■ 研究開発概況

- (1) 附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究
 - ・前年度に引き続き、附属図書館所蔵の古典籍の調査及びDB化作業をすすめた。
 - ・〈名大システム〉古典籍書誌DBの運営・改善を支援した。
 - ・「古書の会」月例会を主宰、図書館職員・一般市民・学生が参加して、古文献の読解能力と古典籍取り扱い能力の向上に努めた。
- (2) 西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究
 - ・前年度に引き続き、岩瀬文庫所蔵古典籍の悉皆調査及びDB化作業をすすめた。
 - ・既に試験公開中の岩瀬文庫書誌DBのデータを改善した。
 - ・講演会及び岩瀬文庫に於ける展示を通して、岩瀬文庫の価値や悉皆調査の意義について社会に情報を発信した。
 - ・新編西尾市史編集委員会に委員（学芸・文化担当）として参加した。
 - ・2018年10月に西尾市で催された第13回「にしお本まつり」に実行委員会委員長として参加し、書物を通じた町おこしという地域連携に取り組んだ。

■ 成果のリスト

[論文]

なし。

[著書]

1. 『(村上忠順叢書第十九) 忠順翁の手紙を読む 四』(単著). 2019年2月. 村上忠順翁顕彰会刊. 70頁 ※2017年度に催した四方樹大学の連続講義を講義録として刊行したもの。

[講演等]

1. 「古書と古書簡でたどる江戸時代」. 2018年4月13日～. NHKカルチャー名古屋 ※2019年3月8日まで毎月1回全12回の講演
2. 「古書の楽しみ方」. 2018年4月22日. 村上忠順翁顕彰会定例総会(於豊田市前林交流館) ※講演
3. 「書は人なり—その12」. 2018年6月1日. 主催「ともしび」(女性市民団体、於岐阜市寺町瑞龍寺) ※講演

4. 「江戸時代文人の手紙を楽しむ」. 2018年6月9日. 東洋文化振興会(於新日本法規出版(株)本社別館) ※講演
 5. 「中根東里を読むことの現代的意義—時代(とき)を超えてひびくことば—」. 2018年7月28日. 市民講座「佐野学」(於佐野日本大学短大) ※講演
- ※「佐野学」は栃木県佐野市の地域創成プロジェクト。講演内容と当日の状況については下記サイトに報告あり。
- <https://www.sanogaku.jp/course/012/>
6. 「忠順翁の手紙を読む」. 2018年8月3日・9月7日・10月5日・11月2日. 村上忠順翁顕彰会(於豊田市前林交流館) ※連続講演
 7. 「見ぬ世の人を友とすること」. 2018年10月18日. 愛知県立半田高等学校「大学・学部・学科研究会」 ※講演
 8. 「学問と名利との関係について」. 2018年10月25日. 名大サロン・キックオフ会 ※講演
 9. 「岩瀬文庫本をちょっとだけ専門的に読む～古典文学ゼミナール入門⑩」. 2018年10月28日. にしお本まつり(於西尾市岩瀬文庫) ※講演
 10. 「今年度の資料調査からわかったこと」. 岩瀬文庫特別講座(於西尾市岩瀬文庫). 2019年3月24日 ※講演

[その他]

1. 「江戸を読む—この豊かなる古書世界—」. 『中日新聞』. 2018年4月3日(第23回)～. ※毎週火曜日朝刊(『東京新聞』は日曜)にコラム記事を連載中
2. 展示図録『こんな本があった!—岩瀬文庫平成悉皆調査中間報告展16—』. 2019年2月. 全24頁

- 外山 勝彦（兼任室員・情報基盤センター教授）
小川 泰弘（兼任室員・情報基盤センター准教授）
駒水 孝裕（兼任室員・情報基盤センター助教）

■ 研究開発事項

- (1) 学術コンテンツ・サービスのための統合情報基盤の整備に関する調査

■ 研究開発概況

- (1) 学術コンテンツ・サービスのための統合情報基盤の整備に関する調査

近年、オープンサイエンスの推進やイノベーションの創出、研究公正の確保などのために、研究のライフサイクルに沿った学術コンテンツの保全・保存、共有、公開、利活用等の実現が強く求められるようになった。実際、研究資金の申請においては研究データの公開方法を要求されるようになってきている。また、研究経過の報告や研究結果（成果物および中間物）の社会還元は、公的資金を使用した責任としても必要である。

学術コンテンツ・サービスには、デジタルアーカイブ（資史料）、学術機関レポジトリ（論文）、研究データ管理がある。本学では、研究データの組織的管理は未着手であり、デジタルアーカイブやレポジトリは附属図書館が担当してきたが、サービスとして十分に確立しているとは言い難い。さらに、従来、それらは個別のサービスとして管理されてきたが、それらを有機的に連携させ、一体的に管理・運用することによる効果は大きい。したがって、学術コンテンツ・サービスの体制と運用を組織的に整備し、学内外の研究活動を支援することは、本学の喫緊の課題である。

本課題は、本学における学術コンテンツ・サービスのための統合情報基盤を整備することを目標として、情報連携統轄本部（情報戦略室）等と連携しつつ、本学におけるそのあり方を検討するために、国内外における学術コンテンツ・サービスの研究開発や体制・運用の動向、課題等を調査するものである。

今年度は、研究データ管理サービスの実現に向けて、次の活動を行った。なお、下記1, 4, 5にかかる旅費などの経費は、すべて情報基盤センターの予算により賄った。

1. 大学 ICT 推進協議会（AXIES）研究データ管理部会（2回）および「研究データマネジメント行動計画草案」作成 WG（3回）に出席し、「学術機関における研究データ管理に関する提言」草案作成に参画した。

- 大学 ICT 推進協議会（AXIES）研究データマネジメント部会

- 第1回 H30. 6. 20 学術総合センター

- 第2回 H30. 11. 21 札幌コンベンションセンター（札幌市白石区）

●同部会「研究データマネジメント行動計画草案」作成 WG

第1回 H30. 8. 20 国立情報学研究所

第2回 H30. 9. 18 京都大学学術情報メディアセンター

第3回 H30. 10. 16 名古屋大学 IB 電子情報館

なお、同提言は AXIES 理事会 (H31. 3. 13) において、AXIES 全体の総意として取り扱うことが合意された。

2. 情報・システム研究機構 (ROIS) 未来投資型プロジェクト「オープンサイエンス時代の研究データの機関管理に関する研究」(研究代表者・船守美穂准教授(国立情報学研究所))に参画し、次の会合に出席した。このプロジェクトは、研究データ管理における学術機関の役割を検討するものである。

第1回 H30. 11. 30 国立情報学研究所

第3回 H31. 2. 25 国立情報学研究所

特に、第3回において、名古屋大学における研究データ管理の現状と取り組みに関する講演を行った。

3. オープンサイエンス研究データ基盤作業部会 (1回) に出席した。この作業部会は、学術情報ネットワーク運営・連携本部の下に設置されており、大学等学術機関におけるオープンサイエンス研究データ基盤の構築とその運用の在り方を議論するものである。

第1回 H31. 2. 19 国立情報学研究所

第1回の会議ではシステム SWG (サブ・ワーキング・グループ) とトレーニング SWG の設置が承認された。本学からはシステム SWG に小川 (情報基盤センター)、トレーニング SWG に村西 (附属図書館) が参加し、引き続き議論を続けることとなった。

4. 情報連携統轄本部研究データ管理プロジェクトに参画した。同プロジェクトの会議は10回開催された (H30. 5. 15, 6. 28, 7. 18, 9. 26, 10. 18, 11. 22, 12. 20, H31. 1. 17, 2. 28, 3. 20)。

同プロジェクトでは、国立情報学研究所が主宰する Gakunin-RDM 実証実験 (H31. 1~) に参加することを決定し、大規模ストレージの購入・設定など、その準備を推進した結果、平成31年3月20日から実証実験を開始した。

また、同本部主催の下記講演会 (2回) の開催に協力した。

(1) 「研究データ管理と大学：現状と課題」尾城孝一特任研究員 (国立情報学研究所)、H30. 12. 5, 附属図書館

(2) 「NII 研究データ基盤サービスを利用した学内システムの構築～情報基盤センターと図書館の対話と連携を基軸として～」込山悠介助教 (国立情報

学研究所), H30. 9. 12, 附属図書館

5. 次のシンポジウム等の集会に参加し, 調査・議論を行った.
- (1) H30. 5. 16 シンポジウム「ジャパンサーチ (仮称) 分野横断統合ポータル構築に向けて」, 国立国会図書館東京本館
 - (2) H30. 6. 18・19 Japan Open Science Summit 2018 (JOSS2018), 学術総合センター
 - (3) H30. 6. 20 学術情報オープンフォーラム2018, 学術総合センター
 - (4) H30. 8. 6 JPCOAR スキーマ説明会, 国立情報学研究所
 - (5) H30. 8. 21 セミナー「研究・実験データの保管・共有の推進方策」, 明治薬科大学剛堂会館
 - (6) H30. 11. 21 大学 ICT 推進協議会2018年次大会 企画セッション「研究データマネジメント環境構築のためのポリシーメイキング」, 札幌コンベンションセンター
 - (7) H30. 12. 11 NII 学術情報基盤ミーティング2018, ウィンクあいち

■ 成果のリスト

〔国際会議発表〕

1. Miho Funamori, Takaaki Aoki, Katsuhiko Toyama: Engaging Academia with Japan-wide Data Platforms and RDM Charter, The Future of Research Communications and e-Scholarship Conference (FORCE 2018), Montreal, Canada (2018. 10. 12).

〔口頭発表〕

1. 外山勝彦:名古屋大学における研究データ管理に向けて, ROIS 未来投資型プロジェクト「オープンサイエンス時代の研究データの機関管理に関する研究」第3回会合 (2019. 2. 25)

■ 山里敬也（兼任室員・教養教育院教授）

■ 研究開発事項

- (1) 著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の作成についての研究開発

■ 研究開発概況

- (1) 著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の作成についての研究開発

著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の作成について大学学習資源コンソーシアム（CLR）と連携をとりつつ進めた。また、昨年度まで当方が行った CLR デジタル教材実験をベースに電子教科書の本格導入・事業化に向けた検討が進められており、2018年5月に新たにデジタルアーカイブ推進コンソーシアム（DAPCON）が設立されている。恐らく来年度の早い時期に規模の大きい国立大学からデジタル教科書の本格導入する旨の報道発表されるものと予想している。漏れ聞こえてきた情報では、既に副学長レベルで議論されているようで、担当部局や実施詳細を詰めている状況とのことである。諸事情で、最初に実施するのが本学で無いことは、CLR デジタル教材実験を先導してきた者としては、残念である。

さて、DAPCON の設立は昨年5月に改定された著作権法を見据えたものであり、CLR デジタル教材実験も改定された著作権法のもとのデジタル教科書の利活用を行うものである。また、改定著作権で決まった著作物の利用にかかる補償金については、学生1名あたり千円をベースに議論されており、まもなく1次案が公表されるものと考えている。引き続き、これらの動向については大学への影響も大きく、注視していく必要がある。

■ LAI Wai Ling 賴 偉寧 (兼任室員・教養教育院特任准教授)

■ 研究開発事項

- (1) Develop academic writing workshops that integrate a practical and constructive approach to logical thinking education into academic writing education for university students in general.
- (2) Transform a graduate course into a library workshop series suitable for both graduate and undergraduate students.
- (3) Develop teaching materials for the workshop series.

■ 研究開発概況

- (1) Develop a series of academic writing workshops that integrate a practical and constructive approach to logical thinking education into academic writing education for university students in general.

The aim of this research is to transform a graduate course into an annual library workshop series titled "Academic Writing and Logical Thinking Skills". The goal of the workshop series is to teach students the necessary components of writing a satisfactory research paper. Specifically, the workshops aim to help graduate students as well as undergraduate students, through step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write an academic paper with a clear thesis statement and convincing support.

- (2) Transform a graduate course into a library workshop series suitable for both graduate and undergraduate students.

The goal of the graduate course is to help graduate students develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper for publication at a high international level. But this goal is not suitable for the workshop series, which are designed for university students in general. In order to transform the specialized course into a general work series, special teaching methods and materials would have to be developed.

Between May and June in 2018, a series of workshops titled "Academic Writing and Logical Thinking Skills" were held at the Multipurpose Room, Central Library, Nagoya University. Developing from the teaching materials used in the graduate course, the workshops were designed for both undergraduate and graduate students to help them write a clear and convincing paper. Thirty-three people participated in the workshops, and thirteen of them were awarded a certificate of completion.

- (3) Develop teaching materials for the workshop series.

A textbook titled "The Thesis Statement Recipe: Textbook for the Library Workshop Series on Academic Writing and Logical Thinking Skills" was published internally by the library, and was used at the workshop series in 2018.

■ 成果のリスト

〔論文〕

1. Lai, W. L., Nilep, C., Weeks, M., Baumert, N., Todayama, K. "Implementing a Logical Thinking Approach for Education in Research Writing and Presentation". Nagoya Journal of Higher Education. No. 19. P. 285 - 310. 2019.

〔講演〕

1. Lai, W. L. "Introduction to Academic Writing and Logical Thinking". Hiroshima University writing center open lectures 2018. September 19, 2018.
2. Lai, W. L. "Thesis Statement". Hiroshima University writing center open lectures 2018. September 19, 2018.
3. Lai, W. L. "Logical Argument I". Hiroshima University writing center open lectures 2018. September 20, 2018.
4. Lai, W. L. "Logical Argument II". Hiroshima University writing center open lectures 2018. September 20, 2018.

〔国際学会〕

1. Lai, W. L. "How Philosophers can Contribute to Teaching Research Writing". The XXIV World Congress of Philosophy, Peking University. Beijing. 15th August, 2018.

〔シンポジウム〕

1. Lai, W. L. "Tokai National Higher Education and Research System". Plenary Session, 4th International Symposium on Academic Writing and Critical Thinking. Nagoya University. 9th February, 2019.

〔著書〕

1. Lai, W. L., Terashima, M., Yama, H. Healthy Beings. Nakanishiya Shupan. 2018.

〔その他〕

1. Lai, W. L. "Why is it important to think logically for your writing". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 16, 2018.
2. Lai, W. L. "How to make your writing clear". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 23, 2018.

3. Lai, W. L. "How to use logic practically". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 30, 2018.
4. Lai, W. L. "How to make your writing convincing". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", June 6, 2018.
5. Lai, W. L. "Final Presentations". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", June 13, 2018.

■ 齋藤夏来（兼任室員・人文学研究科教授）

■ 研究開発事項

- (1) 高木家文書の初期文書について
- (2) 野間家文書の活用について

■ 研究開発概況

- (1) 高木家文書の初期文書について

附属図書館所蔵高木家文書のうち、とくに戦国期に関わる初期文書や先祖の由来に関わる文書について、関連情報の整理を進めた。本年度は、附属図書館が所蔵する初期武家文書のひとつである年未詳徳川秀忠黒印状をとりあげ、ホームカミングデーのパネル展示において来場者に紹介した。

- (2) 野間家文書の活用について

附属図書館所蔵野間家文書について見出された、知多半島大仙寺の過去帳との関連について、研究報告および論考執筆にむけた作業を進めた。その検討作業をふまえて、中世から近世にかけての寺社の変容にかかわる研究会報告をおこなった。

■ 成果のリスト

[学会発表]

- 1. 「近世寺社朱印地の所有と領有」(近世史研究会・尾張藩社会合同2018年6月30日例会報告)

[その他]

- 1. 「附属図書館所蔵の古文書」(2018年10月10日名古屋大学ホームカミングデーパネル展示)

名古屋大学附属図書館友の会 トークサロン
第43回 **ふみよむゆふべ**

近世文人旗本の東西交信 記録『飛檄』を読む

語り： **箕田将樹 助教**
(愛知淑徳大学)

『飛檄(ひげき)』は、江戸時代中期の旗本で著述家、三橋成烈(みつはしなりて、1726~1791)が、安永期(1772~1780)の大坂在番中に、江戸在住の親族朋友と交わした往復書簡集です。安永二年十月から翌三年六月までの書簡群から成り、当時の武家知識人の日常生活や交友関係、典籍享受の実態を探る上で、貴重な養育を多く含んでいます。今回は、そこから選りすぐりの数通を取り上げて、成烈の人物像や文学観に触れながら、こうした資料が今日に伝えられたことの意味について考えたいと思います。

2018年9月6日 木 午後6時
名古屋大学中央図書館2階OKB高木家文書資料館

名古屋大学附属図書館友の会
TEL 052-789-3684
FAX 052-789-3684
E-Mail tomo@nui.nagoya-u.ac.jp
URL <http://www.nui.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

(後援) 名古屋大学 附属図書館 同 研究開発室

参加費無料
申込不要
会場は別の方法
でお知らせします

名古屋大学附属図書館友の会 トークサロン
第44回 **ふみよむゆふべ**

『日本の現代戯曲を読む -清水邦夫作品をめぐって-』 かたり： **杉山寛行氏** (岐阜市立女子短期 大学長、元本学理事兼副総長)

「現代性」と表現は、詩や小説、映画などに比べて、「時代性」をより迅速に、より直接的に作品に取り込むことができます。しかしその基礎となる戯曲作品は、それ自体では自立せず、演出家や初めとする演出家、演技者、劇場空間などによって、総合的に具現化されます。それだけに「一回性」という大きな特徴も持っています。

1960年代から1990年代にかけて、日本の現代演劇は大きくその姿を変えました。社会全体の変化に対応し、その大半が平等を追求し続けられたからです。当時の戯曲群を巡るとその軌跡を生きて読み取ることができます。しかも同時に「一回性」であったことからその時期の流れの中で抜け落ちていったもの、逆に集った負の遺産の存在もまたあります。今回は、1960年代から1990年代にかけて活躍した戯曲作家の一人、清水邦夫の作品を取りあげ、「戯曲」のことによって「二重性」について考えてみたいと思います。

2018年11月26日(月) 午後6時~
名古屋大学中央図書館2階高木家文書資料館

名古屋大学附属図書館友の会
TEL 052-789-3684
FAX 052-789-3684
E-Mail tomo@nui.nagoya-u.ac.jp
URL <http://www.nui.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

(後援) 名古屋大学 附属図書館 同 研究開発室

参加費無料
申込不要
会場は別の方法
でお知らせします

名古屋大学附属図書館友の会 トークサロン
第45回 **ふみよむゆふべ**

『16世紀末ロシアの皇統断絶時に現れた語文書を中心に』 かたり： **宮野 裕 氏** (岐阜聖徳学園大学准教授)

モスクワのユーリクが18世紀末に断絶したロシアで、15年の時を経て1813年にロシア家が帝位を奪い取ったことになった。しかし、この15年の間に、数々の人々が皇帝(ツァーリ)の位を継ぐ、断絶に備えた皇統断絶の準備をした。即位帝位と即位帝位のない場合は、自ら即位の資格を正当化するために多くの書物を行ったが、なかでもそれが帝位を正当化する「ロシア語文書」を作成し、現に現れたことが知られる。最終的に帝位を奪い取ったことによるロシア家も、断絶はなかった。

帝位継承の絶対的な正当性が存在しないなかで、誰らほどのように帝位を継承したのか。伝承する数多くの文書が断絶しながら、当時のロシア社会についても考えたい。

平成31年2月18日(月)午後6時~
名古屋大学中央図書館2階ディスカバリスケア

名古屋大学附属図書館友の会
TEL 052-789-3684
FAX 052-789-3684
E-Mail tomo@nui.nagoya-u.ac.jp
URL <http://www.nui.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

(後援) 名古屋大学附属図書館 同 研究開発室

参加費無料
申込不要
会場は別の方法
でお知らせします

高木家文書特別展

2018年
7月10日(火)~8月14日(火)

9時~21時(土・日も開催)
会場 名古屋大学中央図書館 2階
主催 名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室

入場無料

趣出し

古文書にみる 地震災害

2018年
10月19日(金)~11月17日(土)

好評を博した2016年春季特別展「古文書にみる地震災害」を、ご要望にお応えして再び開催します。ぜひこの機会をお見逃しなく。

名古屋大学附属図書館が所蔵しているレシヨロおよび附属図書館研究開発室がこれまで調査整理を手がけてきた歴史資料のなかから、江戸時代の地震や津波、噴火に関する古文書・古録・絵図等を紹介します。

入場無料

9:00-21:00(土・日・祝日も開催)
会場 名古屋大学中央図書館2階 OKB 高木家文書資料館
主催 名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室

主な展示資料 高木家文書・神宮皇学館文庫・小川家文書(御旗本御用書)
永田家文書(大坂城文書研究科所蔵)、吉田家文書(大坂城所蔵)

問合せ先: 7464-8601 名古屋南千種区千種町B3-2(7階)
TEL 052-789-3678(8時) FAX 052-789-3684 E-mail: eturan@nui.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告

第17号 (2018年度)

2019年3月31日発行

編集・発行 名古屋大学附属図書館研究開発室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話 052-789-3697
URL <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/libst/>
E-mail libst@nul.nagoya-u.ac.jp

